

NEWS

「スズキ・メソード×東京大学」 共同研究第2弾が完成

2025年4月、東京大学の酒井邦嘉教授とスズキ・メソードの共同研究成果が、世界的な脳科学誌「Cerebral Cortex」で発表されました。

2016年から始まったこの研究は、「聴くことから曲に入る」という母語教育法で80年の実績をもつスズキ・メソードが、最新の計測技術による脳科学で言語習得を解明してきた酒井教授の研究に出会い、スズキ・メソードの優れた効果や、音楽と言葉の共通性を科学的に解明しようという画期的なチャレンジです。

1.調査で行ったこと

参加者:中級レベルのピアノ奏者(中学生から大人まで) 38名

中級者向けの短いピアノ曲について、

- 1)最初の5日間に音源を聴くことから始める条件
- 2)最初の5日間に楽譜を読むことから始める条件

で、それぞれ2曲ずつを1週間練習してもらいました。

その翌日にMRI装置の中で、曲の一部を不自然に変えたものを正しく判定できるかをチェックしながら、その時の脳活動を測定しました。

	スズキ・メソード以外	スズキ・メソード
ピアノ+他楽器 (Multi)	Multi/ Non-Suzuki 8名	Multi/Suzuki 11名
ピアノのみ (Mono)	Mono/ Non-Suzuki 7名	Mono/Suzuki 12名

2.調査から分かったこと

「正答指標」=正解率÷応答時間(この値が大きいほど成績が高い)

- どの群も、音源を聴くことから始める条件1)のほうが、正答指標が大きい
- 複数楽器習得者(1年以上)のほうが、ピアノのみの人より正答指標が大きい



2025年3月27日記者会見
東京大学 酒井邦嘉教授(左) スズキ・メソード 東誠三会長(中) 早野龍五理事長(右)

- スズキ・メソードの生徒は、条件1)と2)に対する正答指標の差が特に顕著
- 複数楽器習得者では、条件1)で左脳の言語野が活発化した
- どの群も、楽譜を読むことから始める条件2)では右脳の活動が強くなる
- スズキ・メソードの生徒は、条件2)で右脳だけでなく左脳の言語野も活発化した
- 正答指標が大きい人ほど、右脳の聴覚野の活動が節約されて省エネ型になる

3.研究の広がり

- 聴くことから曲に入るメソードや、複数楽器を習得する優位性は、外国語のリスニング学習や、多言語習得の優位性と符合する
- 高度な音楽的判断に言語野が関わっていることは、情操教育と語学教育の相乗効果を示しており、教育現場の改善にも役立つ

東京大学プレスリリース



Cerebral Cortex 論文



MonthlySuzukiでの紹介



公益社団法人
才能教育研究会

才能教育研究会本部事務局

所在地 〒390-8511 松本市深志 3-10-3

TEL 0263-32-7171

FAX 0263-32-7451

メール talent@suzukimethod.or.jp

WEB http://www.suzukimethod.or.jp

2025年(令和7年)7月20日発行

Webサイト

